

2018年3月期第2四半期 決算説明会 主要Q&A

Q：上期の売上高及び営業利益について

A：上期の売上高が当初公表値（1,100億円）に対し、+66億円となったのは、公共公益他で大型プロダクト販売60億円（昨年度末受注残から30億円、当期受注・売上で30億円）の寄与が大宗です。一方、売上高総利益率は、このプロダクト販売60億円が低粗利であったことにより20.2%に下がりましたが、このプロダクト販売影響を除きますと、21.2%とほぼ計画通り（計画は21.1%）です。販管費は、営業力強化を中心に+5億円増加しましたが、営業利益は101億円とほぼ計画通りになりました。

Q：上期の受注、受注残について

A：上期の受注は、1,193億円と対前年+35億円の増加です。

業務ソリューションは、昨年度の公共公益他での大型案件受注の反動減-80億円がありましたが、金融+15億円、公共公益他+50億円の積み上げがあり、-9億円に止まりました。また、サービスソリューションは、鉄鋼で来期以降に売り上がる案件30億円の積み上がりとNVC完全子会社化の寄与により対前年+44億円の増加となりました。

上期末の受注残は、1,201億円と対前年+133億円の増加です。

業務ソリューションは、公共公益他+60億円、金融+30億円と積み上がり+90億円となりました。サービスソリューションは、新日鐵住金向け+30億円を中心にNVCの受注残を加え+43億円です。

Q：売上高及び営業利益の下期見通しについて

A：下期の売上高は1,254億円と当初公表値(1,250億円)なみで計画し、鉄鋼、金融の統合案件のピークアウト及び前年度4Q期一過性プロダクト販売の反動減をその他の領域の増収でカバーします。営業利益については、売上高総利益率を当初計画通り20.8%とし、販管費増を吸収して年度利益目標227億円の達成を目指します。

以 上